附属学校教育局　プロジェクト研究 3

1．研究テーマ
コロナ禍におけるインクルーシブ教育の実践と評価

2．研究代表者

小島道生（附属学校教育局）

3．研究構成員

氣仙有実子、熊澤彩子（附属視覚障害特別支援学校）、杉田葉子、菅野佳江、杉田葉子、飯島徹、堀江俊丞、宮林一菜、島尚平、飛田真里（附属大塚特別支援学校）、谷川裕子（附属桐が丘特別支援学校）

4．研究目的

コロナ禍において、感染予防の観点から、教育機関では授業などにおいて、様々な新たな実践が取り組まれている。そして、交流及び共同学習においても、オンラインによる取り組みなどが示されつつある。

そこで、本研究では、コロナ禍におけるインクルーシブ教育の実践について検証し、より効果的な教育実践の在り方について検討することを目的とする。附属学校群と局での取り組みについて検証するとともに、国内外の研究者や学校機関とも連携をし、教育実践の状況や効果的な支援の在り方について検討する。なお、本プロジェクトはコロナ禍における検討ということもあり、令和5年度で終了予定である。

5．研究成果の概要

今年度は、1）改めてコロナ禍を振り返り、交流及び共同学習の実践において、どのような影響あるいは課題や成果があったか、2）コロナ禍の時とコロナ禍後において、交流及び共同学習はどのように変わったか、3）今後、より充実したインクルーシブ教育を実現していくために、附属学校としてはどのような取り組みが必要と考えるか。また、附属学校教育局としてはどのような取り組みが必要と考えるか、という点について審議、検討を行い、コロナ禍における交流及び共同学習の課題と成果について分析した。

（文責；小島道生）